JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	知識創造支援システム第3版導入作業と他作業の報告
Author(s)	福島，清信
Citation	国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学技術サービス部業務報告集 ： 平成22年度: 83-86
Issue Date	2011-08
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/10039
Rights	
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

知識創造支援システム第 3 版導入作業と他作業の報告

福島清信

ライフスタイルデザイン研究センター

概要

知識科学教育研究センター技術職員の業務報告として通常業務の内容と 2011 年 1 月に稼働開始した知識創造支援システム第 3 版の導入作業や 2010 年度に関わった作業について報告する。

なお、知識科学教育研究センターは 2011 年 4 月のセンター改組に伴い、ライフスタイルデザイン研究センターに名称が変更となった。

1　通常業務

知識科学教育研究センターでの業務は知識創造支援システムをはじめ、大判プリンタ等、センターが保有している機器の維持・管理が主となる。その内容はアプリケーション・計算サーバ、ネットワーク機器をはじめとした情報機器群や、視線追従装置、脳波計などの計測装置の維持管理、セミナ等の録画と VOD サーバへの登録、センター物品の貸出管理、用紙等消耗品の管理など多岐にわたる。

2　知識創造支援システム

2.1　知識創造支援システムとは

知識創造支援システムは、知識科学教育研究センターが知識社会のパイオニア養成機関である知識科学研究科および本学をサポートする立場から、最新の技術・機器・ソフトウェアを総合的に蓄積した 21 世紀の高等教育にふさわしい環境を構築し、知識創造実践教育を実施するとともに、社会に開かれた先導的大学としての役割を担っていくために必要なシステムである。

2.2　知識創造支援システム第 3 版

2011 年 1 月から稼働しているシステムである。図 1 ~図 5 のサブシステム群で構成される。各サブシステムはそれぞれのサブシステムに必要な機器で構成される。2010 年 12 月末まで稼働していた第 2 版の構成内容と比較すると、中規模計算サーバ、無線 LAN IP 電話システムといった情報機器や VOD システムなどは廃止となり、人間行動分析システムや生体計測システムの構成要素である計測機器類が充実したシステムとなった。

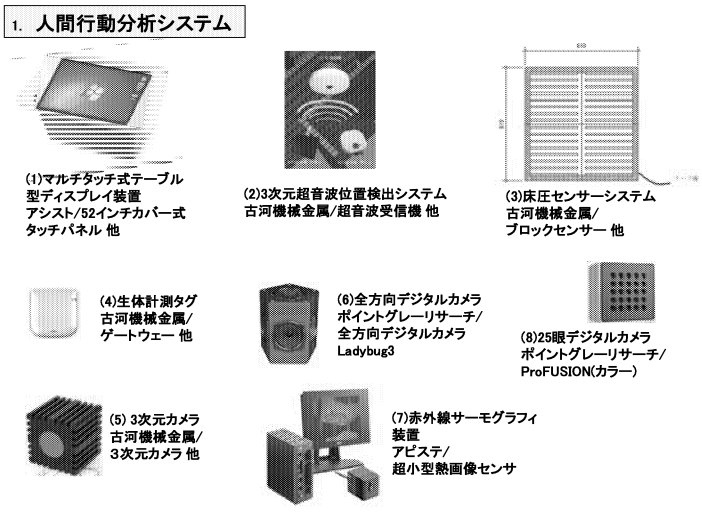

図 1．知識創造支援システム第 3 版　概要 1

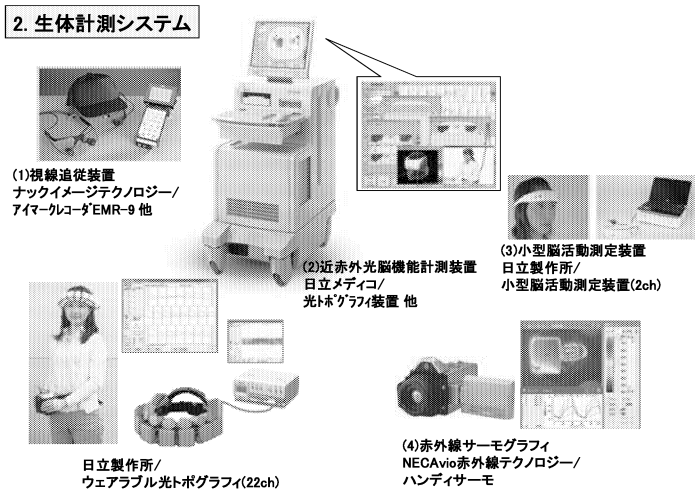

図２．知識創造支援システム第３版　概要２

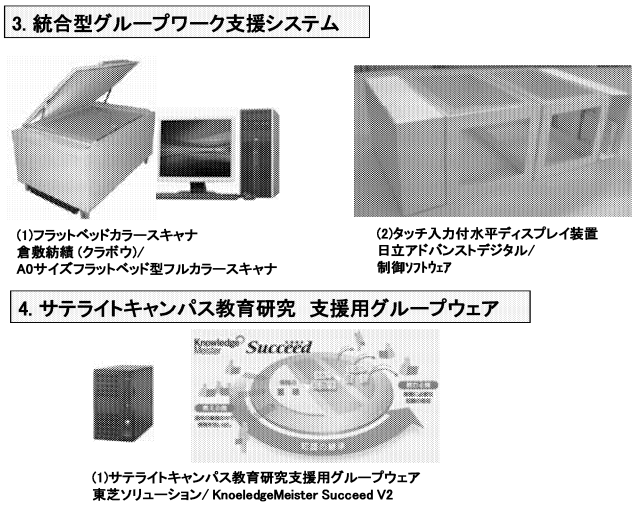

図３．知識創造支援システム第３版　概要３

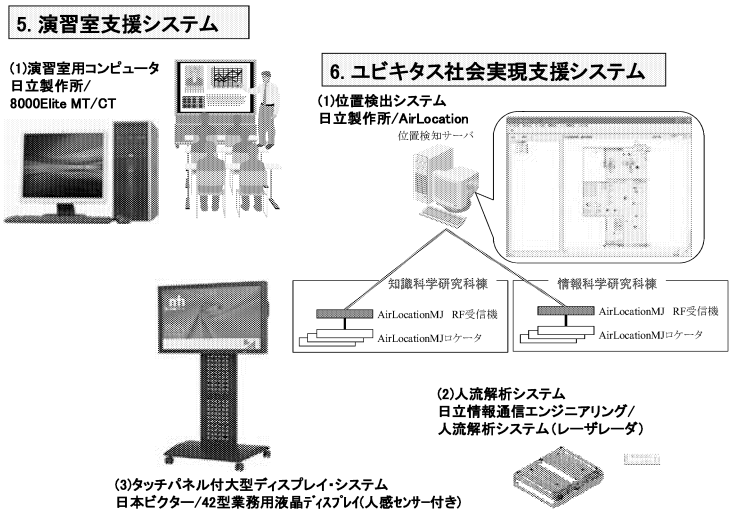

図４．知識創造支援システム第３版　概要４

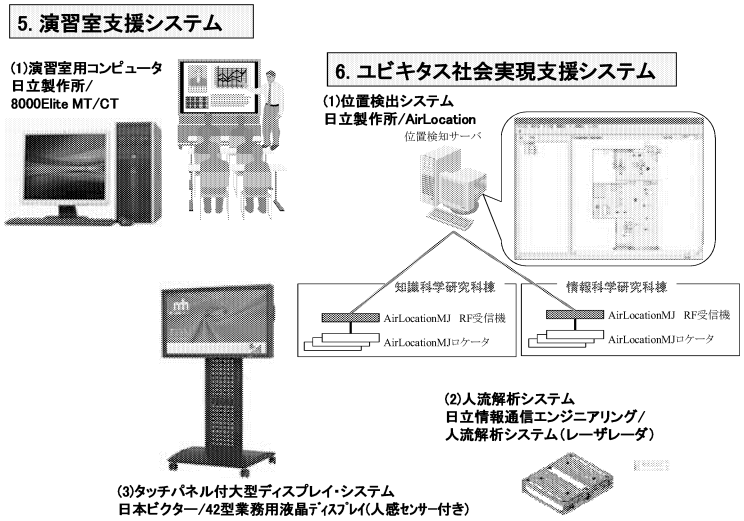

図５．知識創造支援システム第３版　概要５

3　知識創造支援システム第 3 版の導入作業

知識創造支援システム第 3 版は 2010 年 12 月末の第 2 版稼動停止直後から稼働開始となる。図 6 はその導入スケジュールである。12 月から翌年 1 月にかけてユーザの研究活動がより活発になることから、導入作業の中でも特に搬入・備え付け作業は綿密かつ慎重に実施する必要があった。

まずシステム構築に必要な作業場所、機器の保管場所として利用出来る空間の調査を実施した。確保できた空間では全システムを一度に受け入れることができないため、各システムごとに搬入から設置・構築までの所要時間を調査した。その調査結果とユーザの利用状況を踏まえて、各システムの作業タイミングを検討した。

カラー・モノクロ複合機(2 次元表現システム)や位置検出システム(ユビキタス社会実現支援システム)などは、設置箇所が知識科学研究科棟全域に渡り、さらに第 2 版からの継続システムであることから作業内容は機器置き換えという形になる。ユーザ利用に支障が生じないよう作業を実施する必要があるため、可能な限り短時間で円滑に作業ができるよう撤去・設置スケジュールの調整を行いユーザへのアナウンスを行った。

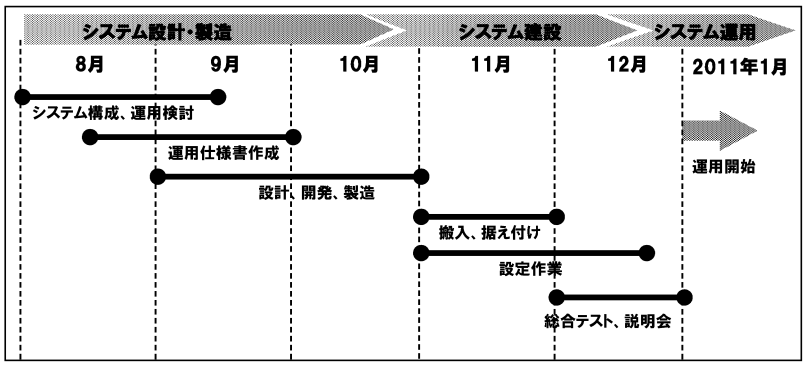

図６．知識創造支援システム導入スケジュール

無線 LAN AP と IP 電話システムや VOD システムなど、第 2 版をもって知識創造支援システムとしてのサービスは終了するが、以後他センターがサービスを担うものについても、当該センターの担当員と第 2 版でのシステム構成情報や機器の稼働状況を共有し、ユーザへの告知を行った。

演習室支援システム・アプリケーションサービスシステムは情報科学センター（現：情報社会基盤研究セ

ンター）が提供しているユーザ認証システムとの連携を行い、本学ユーザが違和感なく利用できるようにシステム内容を検討し構築した。また、授業等で利用されることがあるため、授業に必要なアプリケーションを調査し、インストールを行った。

4　その他設備の整備

実験室として利用する部屋の天井にケーブルラダーを設置し実験内容に応じたケーブル配線の作業性を向上させた。また、実験環境の充実を図るため室内に小型防音室を設置した。これらの設備も知識創造支援システムの導入スケジュールやユーザの利用予定を踏まえながら、敷設作業スケジュールを計画した。

部材へのマーキングを主とした部材加工のニーズに応えるため、小型レーザ加工機の導入を行った。

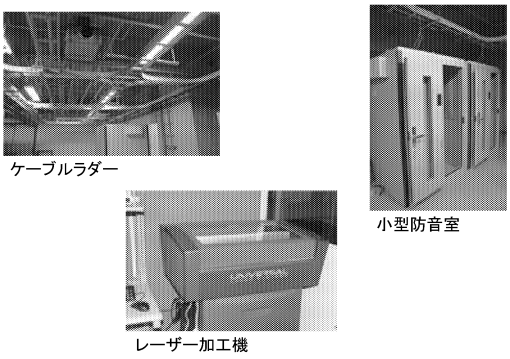

図７．その他設備の整備